

【高知市】こどもたちが運営するまち「とさっ子タウン」の取組

取り組み情報

取組の内容

■ とさっ子タウンとは

高知市では、夏休みの2日間現れる架空のまち「とさっ子タウン」を開催。

小学4年生から中学3年生までの約500名が市民となり、就労や起業、納税、選挙など現実さながらの社会の仕組みを疑似体験する。

「高知ならではの仕事や文化の体験」

「異年齢のコミュニケーション」

「社会の仕組みの理解」

を3つのねらいとし、実社会や地元への関心を育む。

■ 運営主体

高知市市民活動サポートセンターと学生・社会人の実行委員会が協働で企画運営している。



取組の成果

■ 実績数値

- 累計参加者数: 3,222名(実人数)

※ 2009年度の開始から通算14回開催

- 協力企業・団体数: 119社(人材派遣・協賛金・協賛物品/2025年度実績)

- お仕事ブース数: 75ブース(2025年度実績)

- 運営スタッフ数: 2日間で749名(実人数)

※ 専門家・ボランティア・実行委員/2025年度実績

■ 地域社会への影響

- 組織を超えた協働体制の確立

行政・企業・NPOが連携し、地域全体で次世代の成長を支える仕組みを構築しています。

- 世代交代(人材育成の循環サイクル)の定着

かつて市民として参加した経験者が高校生や大学生となり、ボランティアや実行委員として事業運営に回るサイクルが定着し、若者の主体的な地域参加と事業の持続可能な循環が生まれています。



【高知市】こどもたちが運営するまち「とさっ子タウン」の取組

取り組み情報

取組の内容

1 はじめに～「とさっ子タウン」とは～

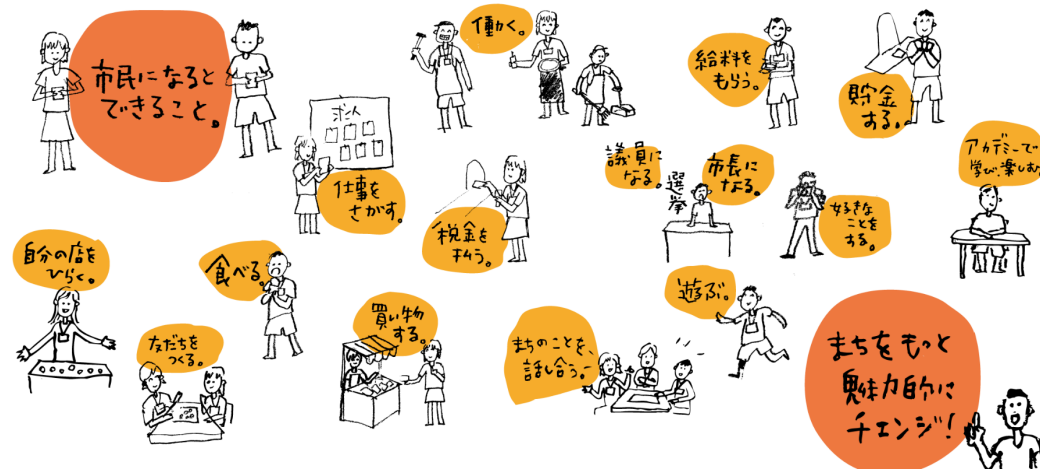
高知市では、こどもたちが運営する架空のまち「とさっ子タウン」の取り組みを実施しています。この事業は、夏休みの2日間だけ現れる「こどものまち」に、10歳から15歳(小学4年生から中学3年生)のこどもたちが「市民」として参加するものです。参加するこどもたちは、まちの中で働いて専用通貨(トス)の給料をもらい、税金を納め、買い物や遊び、起業、さらには選挙まで、本当の社会そっくりの体験をします。

2 事業の背景と3つのねらい

本事業の背景には、若年層の選挙における投票率の低さや、県外への転出者の多さ、若い世代の市民活動への参画意識の薄さといった高知の地域課題がありました。これらを改善し、将来を担う若い世代の地域社会への参画意識を涵養(※)することを目的として本取り組みはスタートしました。こどもたちが社会やまちに興味・関心を持ち、「高知のことをもっと好きになって欲しい」という想いから、以下の3つをねらいとしています。

- ① 高知ならではの仕事や文化を楽しく体験できる場
- ② 異年齢間のコミュニケーションが生まれる場
- ③ 社会の仕組みを知ってもらう場

※ かんよう
涵養…土に水がしみこむように、
時間をかけてゆっくり丁寧に養うこと



【高知市】こどもたちが運営するまち「とさっ子タウン」の取組

取り組み情報

取組の内容

3 具体的なプログラムと「高知らしさ」

とさっ子タウンには、市役所、銀行、警察署、放送局など多数の職業が用意されており、その道のプロフェッショナルから直接仕事を教わります。こどもたちはハローワークで求人票を取り、仕事場で働いて給料を得るという一連の経済活動を体験します。また、高知の地域性を活かした要素を取り入れているのが大きな特徴です。例えば、日本最古の歴史を持つといわれる「路面電車」をまちの中で走らせたり、高知のお酒の席の文化である「お座敷遊び(はし拳)」を地元の芸妓さんから教わる道場を設けたりしています。

4 主体性を引き出す「起業」と「政治」

まちの中では、こどもたちが自ら課題を見つけ、「起業」することができます。たとえば、まちの中で荷物を抱えて移動するこどもたちの様子を見て、「荷物を預かる場所を作ればいい」と考え、「荷物預かり屋」を起業したこどもがおり、まちの課題解決につながっています。さらに、まちの代表である「市長」や「議員」もこどもたちの選挙で選ばれます。当選した市長や議員は議会を開き、「ハローワークの混雑を改善する」などのマニフェストの実現に向けた話し合いを主体的に行っています。



【高知市】こどもたちが運営するまち「とさっ子タウン」の取組

取り組み情報

取組の内容

5 学生と社会人による運営体制

とさっ子タウンは「こどものまち」であるため、保護者はまちの中に入ることができません。まちの運営を支えるのは、高校生や大学生を中心とした学生スタッフと、地域で活動する社会人からなる「とさっ子タウン実行委員会」です。実行委員長や副実行委員長などの中心的な役割を学生が担い、社会人がそれをサポートする体制をとることで、参加するこどもたちだけでなく、運営に関わる若者自身の成長や地域社会への参画を促す重要な場となっています。

6 持続可能な地域社会づくりに向けて

「とさっ子タウン」の取り組みは、2009年に開始し、2026年で15回目の開催を迎えます。「地域全体でこども・若者を育む取り組み」として、多くの方のご協力をいただきながら、継続することができました。かつて市民として参加したこどもがボランティアや実行委員となり、やがて社会人として協力企業や地域活動を支える人材へと成長するサイクルが生まれたことは、本取り組みの大きな成果と言えます。今後も高知市をはじめ、行政、NPO、企業等が連携し、こどもたちの主体性と郷土愛を育む場を未来へ繋げていくとともに、ここで育った若者が将来の高知のまちづくりを担う主役となっていくことを目指していきます。

